



## 2021年6月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

2020年11月13日

上場会社名 株式会社ジェイテックコーポレーション 上場取引所 東  
 コード番号 3446 URL http://www.j-tec.co.jp  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 津村 尚史  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理部長 (氏名) 平井 靖人 TEL 072 (655) 2785  
 四半期報告書提出予定日 2020年11月13日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無  
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2021年6月期第1四半期の業績 (2020年7月1日～2020年9月30日)

#### (1) 経営成績 (累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年6月期第1四半期	37	△49.3	△201	—	△199	—	△138	—
2020年6月期第1四半期	73	△48.1	△132	—	△144	—	△102	—

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年6月期第1四半期	△23.70	—
2020年6月期第1四半期	△17.47	—

#### (2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2021年6月期第1四半期	2,576	2,332	90.5
2020年6月期	2,636	2,471	93.7

(参考) 自己資本 2021年6月期第1四半期 2,332百万円 2020年6月期 2,471百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年6月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2021年6月期	—	—	—	—	—
2021年6月期 (予想)	—	0.00	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

### 3. 2021年6月期の業績予想 (2020年7月1日～2021年6月30日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期 (累計)	480	69.9	△127	—	△127	—	△87	—	△14.99
通期	1,443	40.4	215	—	237	595.1	163	902.5	28.03

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2021年6月期1Q	5,855,000株	2020年6月期	5,855,000株
② 期末自己株式数	2021年6月期1Q	99株	2020年6月期	66株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2021年6月期1Q	5,854,901株	2020年6月期1Q	5,844,545株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期貸借対照表 .....	4
(2) 四半期損益計算書 .....	5
第1四半期累計期間 .....	5
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項 .....	6
(継続企業の前提に関する注記) .....	6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	6
(追加情報) .....	6
(セグメント情報) .....	6

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期累計期間における我が国経済は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、多くの企業活動や個人消費において制約・自粛を強いられたことに伴い、景気悪化の状況が継続することとなりました。世界経済は、中国及びアジアにおいては、感染症の影響が収束してきたことに伴い緩やかな回復基調をみせてきている一方、欧米においては、感染症の収束がみられず予断を許さない状況が続いております。

また、ビジネスにおける海外との往来についても、中国及びアジアにおいては渡航制限の解除が進みつつあるものの、欧米においては未だ目途が立たない状況となっております。

このような経済環境のなかで当社は、オプティカル事業及びライフサイエンス・機器開発事業という独自の技術を利用した二つの事業により、営業基盤の強化と拡充に努めてまいりました。

この結果、当第1四半期累計期間における経営成績は、売上高37,114千円（前年同期比49.3%減）、営業損失201,956千円（前年同期は132,899千円の損失）、経常損失199,245千円（前年同期は144,758千円の損失）、四半期純損失138,759千円（前年同期は102,088千円の損失）となりました。

セグメントの経営成績は、次の通りであります。

#### (オプティカル事業)

当第1四半期は、中国（施設：SSRF）向けの集光装置（イタリアのメーカーに製造委託分）や、台湾（施設：TPS）向けの売上等があがりました。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響は前事業年度に引き続き大きく出ており、特に欧米においては収束の目途が立っておらず、現地に赴いての営業活動が出来ない状況がしばらく続くとして予測しております。一方で、中国及びアジアにおいてはビジネス上の渡航制限の解除の動きがあり、また放射光施設の稼働再開も進んでいるため、今後は特に中国向けの案件に集中して取り組む方針としております。中国では、他の地域では類を見ない規模にて放射光施設及び自由電子レーザー施設の建設が進んでいるため、経営資源を集中的に投下する価値があるものと考え取り組んでまいります。

また、当第1四半期においては、主に納品に向けての製造活動及び新規事業関連の研究開発活動に注力してまいりました。当事業年度においても、特に海外向けの案件については第4四半期に売上が偏重すると見込んでおります。

この結果、売上高は32,146千円（前年同期比42.2%減）、セグメント損失は70,380千円（前年同期は32,539千円の損失）となりました。

#### (ライフサイエンス・機器開発事業)

当第1四半期の売上は当初から大きく見込んでおらず、大型自動培養装置のメンテナンス料や機器開発関連の消耗品による売上等があがりました。また、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により開発が大幅に遅れていた水晶振動子ウエハ加工システムについては、第2四半期での売上を見込んでおります。

この結果、売上高は4,967千円（前年同期比71.7%減）、セグメント損失は39,512千円（前年同期は27,974千円の損失）となりました。

### (2) 財政状態に関する説明

#### (資産)

当第1四半期会計期間末における流動資産は1,100,460千円となり、前事業年度末に比べ111,349千円減少いたしました。これは主に仕掛品（当第1四半期会計期間末残高は主にライフサイエンス・機器開発事業関連）が101,959千円増加した一方で、受取手形及び売掛金が291,794千円減少したことによるものであります。固定資産は1,475,759千円となり、前事業年度末に比べ50,904千円増加いたしました。これは主に、減価償却が進んだことに伴い機械及び装置が9,664千円及び建物等が8,143千円減少した一方で、繰延税金資産の増加に伴い投資その他の資産が63,197千円増加したことによるものであります。

この結果、総資産は2,576,219千円となり、前事業年度末に比べ60,445千円減少いたしました。

#### (負債)

当第1四半期会計期間末における流動負債は241,791千円となり、前事業年度末に比べ78,592千円増加いたしました。これは主に未払金の増加に伴い流動負債（その他）が42,442千円及び前受金が15,064千円増加したことによるものであります。固定負債は1,722千円となり、前事業年度末に比べ178千円減少いたしました。これは長期リース債務が178千円減少したことによるものであります。

この結果、負債合計は243,513千円となり、前事業年度に比べ78,414千円増加いたしました。

(純資産)

当第1四半期会計期間末における純資産合計は2,332,705千円となり、前事業年度末に比べ138,859千円減少いたしました。これは主に四半期純損失を138,759千円計上したことによるものであります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

業績予想については、2020年8月12日の「2020年6月期 決算短信」で公表いたしました第2四半期累計期間及び通期の業績予想に変更はありません。

## 2. 四半期財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2020年6月30日)	当第1四半期会計期間 (2020年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	573,400	593,553
電子記録債権	701	10,937
受取手形及び売掛金	312,167	20,372
商品及び製品	25,621	34,845
仕掛品	132,351	234,310
原材料及び貯蔵品	12,045	21,905
その他	155,521	184,534
流動資産合計	1,211,809	1,100,460
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	801,091	792,948
機械及び装置（純額）	178,739	169,075
土地	318,979	318,979
建設仮勘定	52,460	56,319
その他（純額）	46,563	44,504
有形固定資産合計	1,397,834	1,381,826
無形固定資産	13,647	17,362
投資その他の資産	13,372	76,569
固定資産合計	1,424,855	1,475,759
資産合計	2,636,664	2,576,219
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	60,814	71,749
未払法人税等	6,315	2,578
前受金	19,580	34,644
賞与引当金	13,371	23,458
受注損失引当金	-	3,800
その他	63,117	105,559
流動負債合計	163,199	241,791
固定負債		
リース債務	1,900	1,722
固定負債合計	1,900	1,722
負債合計	165,099	243,513
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	821,241	821,241
資本剰余金	781,241	781,241
利益剰余金	869,348	730,589
自己株式	△265	△365
株主資本合計	2,471,565	2,332,705
純資産合計	2,471,565	2,332,705
負債純資産合計	2,636,664	2,576,219

(2) 四半期損益計算書  
(第1四半期累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期累計期間 (自 2019年7月1日 至 2019年9月30日)	当第1四半期累計期間 (自 2020年7月1日 至 2020年9月30日)
売上高	73,204	37,114
売上原価	41,346	37,343
売上総利益又は売上総損失(△)	31,857	△229
販売費及び一般管理費	164,757	201,727
営業損失(△)	△132,899	△201,956
営業外収益		
受取利息	100	4
為替差益	-	2,609
その他	37	128
営業外収益合計	137	2,742
営業外費用		
支払利息	108	24
為替差損	2,269	-
固定資産除売却損	9,425	-
その他	193	7
営業外費用合計	11,996	32
経常損失(△)	△144,758	△199,245
税引前四半期純損失(△)	△144,758	△199,245
法人税、住民税及び事業税	948	475
法人税等調整額	△43,618	△60,962
法人税等合計	△42,669	△60,486
四半期純損失(△)	△102,088	△138,759

## (3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

前事業年度の有価証券報告書の追加情報に記載した新型コロナウイルス感染症拡大の影響に関する仮定について重要な変更はありません。

(セグメント情報)

## I 前第1四半期累計期間(自 2019年7月1日 至 2019年9月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期 損益計算書 計上額 (注) 2
	オプティカル 事業	ライフ サイエンス・ 機器開発事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	55,663	17,541	73,204	—	73,204
計	55,663	17,541	73,204	—	73,204
セグメント損失(△)	△32,539	△27,974	△60,514	△72,385	△132,899

(注) 1. 「調整額」の区分は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費及び研究開発費等であります。

2. セグメント損失は、四半期損益計算書の営業損失と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

## II 当第1四半期累計期間(自 2020年7月1日 至 2020年9月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期 損益計算書 計上額 (注) 2
	オプティカル 事業	ライフ サイエンス・ 機器開発事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	32,146	4,967	37,114	—	37,114
計	32,146	4,967	37,114	—	37,114
セグメント損失(△)	△70,380	△39,512	△109,893	△92,062	△201,956

(注) 1. 「調整額」の区分は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費及び研究開発費等であります。

2. セグメント損失は、四半期損益計算書の営業損失と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。